



北海道公立大学法人
札幌医科大学保健医療学部
作業療法学科

Sapporo Medical University School of Health Sciences
Department of Occupational Therapy

STEP to
Occupational Therapy
SINCE 1983

みんなの将来を，創造する。



札幌市立北翔養護学校

中村大二朗 さん
(2007年卒業)

現在、肢体不自由特別支援学校に勤務しています。仕事内容は、生徒がよりよい状態で教育を受けられるための支援として、個別訓練の実施や、日常生活動作の支援をおこなっています。毎日生徒と過ごすことで、成長を間近に感じることができ、生徒の笑顔や、「ありがとう」という言葉がとても嬉しく、やりがいを感じております。作業療法士は、幅広い分野で活躍することができ、社会に貢献できる仕事だと思います。皆さんの中から素敵な後輩が出てきてくれることを楽しみにしています。



養護学校



札幌医科大学附属病院

小林 万里 さん
(2015年卒業)

現在、私は本学の附属病院で勤務しています。附属病院では整形外科や脳外科、神経内科など様々な患者様に作業療法を行っています。また、多様な疾患に対応するだけでなく、再生医療などの最先端の治療も行われています。日々勉強の毎日ですが、豊富な知識、高い技術力をもった先生方がいる大学で学んだ経験は、自分の自信になっています。悩むことや困難なこともあります、とてもやりがいのある仕事です。

総合病院

自分の「やりたい!」



JICA



青年海外協力隊 (JICA)

小林 里美 さん
(2002年卒業)

私はアフリカのガボン国立高齢者医療センターで青年海外協力隊として活動しています。ガボン高齢者の健康と生活の改善の為、医療者の高齢者理解と技術を高める為に、同僚らと協力してリハビリや講習を行っています。仲間や患者さんに囲まれ、言葉や習慣の違い等の困難と同じくらい多くの発見や喜びを感じて働いています。

起業



児童デイサービス こども支援ルーム

世良 彰康 さん
(1995年卒業)

私は札幌で「こども支援ルーム」という児童デイサービスを経営しております。児童デイサービスは地域で障害を持つ子ども達の発達支援を行う福祉機関であり、作業療法士が開設した施設も増えてきています。学部や大学院で得た知識は子ども達や保護者への支援を行う知識基盤となっており、札幌医科大学の作業療法学科で学べた事を誇りに思っています。



トータルボディサポート ファーストステップ

鎌倉 一さん
(1990年卒業)

トップアスリートから一般の方々までを対象としたパーソナルトレーニングジムでスポーツトレーナーとして活動しています。お客様個人の状態に応じて、治療・リハビリ・トレーニングなどからメニューを選択して行います。人の身体は作りは一緒でも、日常生活やおこなうスポーツが異なれば使い方が変わってきます。そこをうまく調整していく事ができると、お客様も私もうれしい気持ちになります。とてもやりがいのある仕事です。

スポーツ



行政

恵庭市保健センター 佐藤 和彦さん
(1988年卒業)

地域づくりによる介護予防として、住民主体による「いきいき百歳体操」の推進をしており、地域に出向いての健康教育や体力測定、いきいき百歳体操サポーターの養成講座などを開催しています。

認知症対策では、タッチエムという視空間認知機能評価を使用した相談を行っています。

住民主体の介護予防のまちづくりや、初期の認知症の対応にやりがいを感じています。



が実現できる!!

総合病院



旭川医科大学病院 村田 絵吏さん
(2012年卒業)

私の勤務する旭川医科大学病院は地域の拠点病院として、先端医療を担っています。総合病院であり様々な診療科との関わりがあり、脳外科・整形外科・小児科・内科などの患者様に対して作業療法を行っています。毎日が勉強ですが札幌医大で学んだことが今の自分の基盤として大変有益な資産となっています。優れた先生達から学べたことを誇りに、毎日頑張っています。

大学教員



北海道教育大学札幌校
特別支援教育専攻

池田 千紗さん
(2010年卒業)

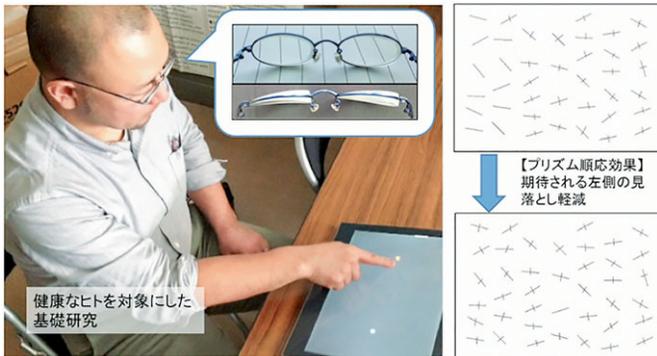
私は、特別支援教育の中で作業療法の専門性を生かしたいと思い、より深く発達障害を学ぶため大学院に進学しました。博士号を取得し、現在は教育大学で発達障害児の運動発達について教鞭を執っています。教育大学では教育機関と連携を取りながら、現職教員や学生と協力してお子さんへの支援を行っています。作業療法士が活躍できる場を広げ、発達障害を持つお子さんが豊かに暮らせるように尽力しています。

高い専門性と、充実した指導体制!

作業療法分野の先進的な研究を発信!

作業療法学第一講座

身体障害・高次脳機能・神経科学・地域・高齢期領域



健康なヒトを対象にした基礎研究

脳の働きを理解し、治療・介入につなげる

ヒトが脳梗塞などによって右脳にダメージを受けると、左側に注意を向けるのが困難となる場合があります。これは、左半側空間無視と呼ばれる症状によるものです。この症状は、食事や着替えをはじめとする様々な日常生活場面に影響を及ぼすため、私たち作業療法士は、症状改善のための治療・介入を行います。

この症状に対する治療法の1つとして、患者さんにプリズム眼鏡を掛けてもらい、印に向けたポインティングを繰り返すプリズム順応課題があります。これは、最も治療効果の期待できる方法であるため、世界中の研究者がその効果検証に取り組んでいます。

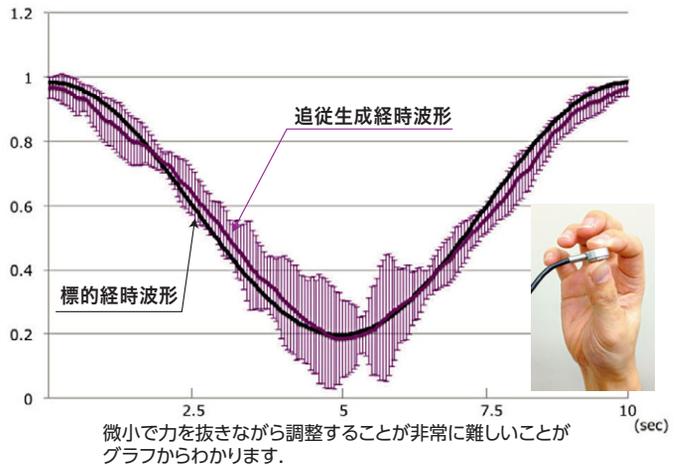
私たちは、独自の視点で健康なヒトを対象に基礎研究を行い、患者さんの治療に生かせるよう検討を続けています。

日常生活に必要な不可欠な上肢機能を科学する

日常生活において、肩・肘・手などの上肢機能が非常に重要な役割を担っていることは言うまでもありません。脳梗塞などの身体障害をもつ患者に対する臨床治療に役立てる上肢機能の研究は非常に重要です。

その中でも札幌医科大学は、手指のつまみ動作に関わる運動制御機能についての研究を、全国的にも先進的に行っています。

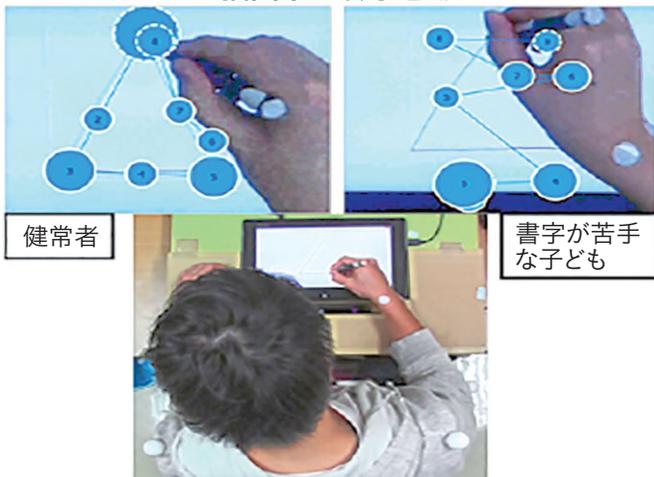
例えば、適切な力で道具を操作するために必要な、力の調整機能と手指の巧みな動き（巧緻性）との関連の研究は、日常使用するペン操作や箸動作に必要な様々な道具操作能力を明らかにしていき、円滑な手指の動作獲得のためのリハビリテーション評価・治療に活かされます。



作業療法学第二講座

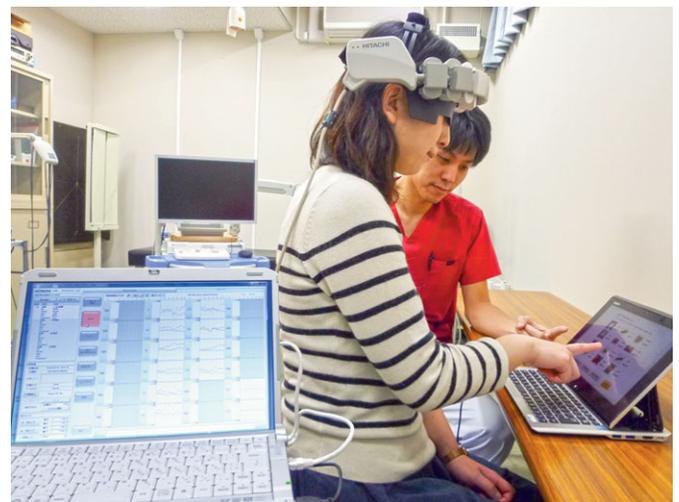
発達障害・精神障害領域

描画中の眼球運動



障がい児の学習・生活環境を支援する方法の開発

発達障害領域では、学習や行動に問題を示す児、姿勢や動きのコントロールが難しい児に対して、環境に合わせた適切な行動を遂行できるための支援方法を開発する研究を行っています。その1つとして、書字や描画に困難さを示す児について、筆記用具の使い方から運筆の特徴を明らかにする研究を行っています。現在は、タブレット PC を用いた評価方法の開発、また同時に筆記用具操作時の体の動きや目の動きの分析も行い、困難さの要因解明と支援方法の検討を行っています。これらから、書字や描画に困難さのある児は健常児・者とは描画中の運筆速度の特徴が違い、目の動き、体や手の動きに違いがあることが解ってきています。



精神疾患に対するリハビリを科学的に追及する

札幌医科大学は、日本人女性として戦後初めてアメリカに奨学金留学し、作業療法を学んだ人が、昭和 29 年にわが国初の精神科作業療法を開始した地でもあります。我々は、その伝統を大切にしながら、障害を持つ人の主体的な生活の回復（リカバリー）を目指し、新たなリハビリテーション法の開発に力を入れています。特に、「脳のリハビリ」という視点に立ち、脳の司令塔である前頭葉の機能向上を促す新しいリハビリテーションを開発し、特許を取得、さらにメタ認知訓練などの認知行動療法を取り入れ、統合失調症患者や認知症の回復に効果をあげています。さらに、近赤外線分光法などを用い、「記憶・思考・感情」の変化に伴う脳活動をリアルタイムに記録し、作業療法の効果を実証する最先端研究を進めています。

卒業するまでの特色あるカリキュラム

—北海道の作業療法分野を牽引する14名の教員が、みなさんの“学びたい”をサポート—

第一学年

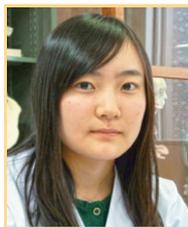
解剖学 ～基礎医学を学ぶ～



からだの病態や機能を理解するには、正常の人体の構造を理解しておくことが重要です。そのため、作業療法士を目指す学生にとって最も重要な基礎科目のひとつとなっています。

解剖学では、人体を構成する様々な系統において、筋系・骨・神経系・呼吸器系・循環器系・消化器系・泌尿生殖器系などがどのように構築され、どのように機能と関連しているのかをしっかりと学びます。

単に暗記学問にならず、実践で使える知識となるように2年生では献体された御遺体により実習を行い、各器官の構造と立体的位置関係を理解します。実際に見て、触って人体への理解を深めていきます。



医療者になるという実感が湧きました

山田 沙菜恵 (札幌国際情報高校出身)

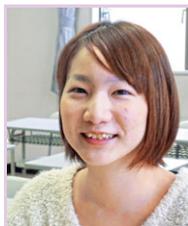
骨のスケッチなどを通して、各骨の特徴を学び、また筋肉や内臓の構造など2年生で行う解剖実習のための知識も教えていただき、人の体の構造を理解することができました。作業療法にとって大切な知識であることを仲間と切磋琢磨しながら実感できました。

第二学年

臨床神経学 ～臨床医学を学ぶ～



将来、作業療法士として最も多く関わるのは神経系に障害を持つ方達でしょう。その方達の年齢は新生児から老年期にわたります。一口に神経系といっても、意識や認知などの脳の高次機能から末梢神経・筋に至るまで非常に広範です。このように「必要だけど習得が難しそう」な臨床神経学の知識を身につけるためにはしっかりと考えられたカリキュラムが必要です。本学科では、小児から高齢者までの多様な神経系疾患を一貫して系統的に学ぶことができます。授業は実際の症例から知識を身につけていく臨床講義の形式で、カルテや画像所見あるいは動画を駆使して、非常に理解しやすい構成になっています。本学で学べば、しっかりと身についた知識が臨床の場で大いに役立つことになるでしょう。



臨床につながるわかりやすい授業です

渡邊 美咲 (旭川東高校出身)

とてもユーモアのある面白い授業で、ドラマや海外映画を用いながら、わかりやすく教えて下さいました。また臨床でも活躍されている先生から直接授業を受けることが出来、とても良い経験になったと同時に、自分の将来に活かしていければと思っています。

基礎作業学 ～作業特性を学ぶ～



作業療法の「作業」とは、日常生活動作、仕事、趣味、遊び等、私たちの生活の中にある様々な活動を指します。なぜ日常的な「作業」が治療の手段となるのでしょうか?この謎を解くことが、基礎作業学の大きな目的です。この謎の鍵は、作業を運動学的、生理学的、心理学的、認知的側面、さらには、作業の持つ意味性、文脈などの視点から多面的に分析していくことで見えてきます。基礎作業学では、趣味的活動から日常生活動作まで、実際に体験しながら、様々な側面から分析を行うことで、治療に必要な「視点」「見方」「関わり方」とその「技術」を学んでいきます。そして、この授業のもう一つの目的は、見たことや経験したことを「言葉」にする技術を得ることです。レポートや報告を通じて、医療者として必須な言語化する力を身につけていきます。



何気ない動作にある意味がわかりました

中谷 優太 (釧路湖陵高校出身)

基礎作業学では陶芸、木工、籐細工、コラーージュ、革細工を通して実際の治療にどう役立てていくか、どの様な観点から作業や動作を観ていくのかを学びます。また自分で作業体験をすることから学ぶことも多く、普段何気なく行っている動作にこんな意味があったのか!と学習することが出来ました。



第三学年

身体障害作業療法治療学 ～評価・治療の演習～



身体障害領域に中心的な疾患である中枢神経疾患，整形外科疾患，神経筋疾患の症例を挙げ，医学的知識の獲得と，治療理論の理解と実際の治療介入方法や記録・報告の技術を学びます。

講義の中では，札幌医科大学附属病院の患者を症例として取り上げ，実際の患者の身体の状態の理解と，患者への評価結果からどのような治療方法が選択されるのかなどリアリティのある授業が展開されています。

また臨床で実際に用いられている運動療法や最新の治療技術についても実技を通して学ぶことができ，将来に繋がる大切な知識・技術を学ぶことができます。

臨床に結びついた症例検討ができる

三和 成実 (札幌藻岩高校出身)

臨床の実際の症例を検討し，プログラムを立案・実施することで治療方法を理解することが出来ます。自主課題研究では作業療法で用いられる理論や最新の治療法について自分たちで調べ，知識を共有することでより理解が深まります。

作業療法臨床実践法 OSCE ～いざ，臨床実習へ！～



4年生には，病院や施設で長期間の臨床実習があります。本学科では実習施設が充実しており，将来様々な実践現場で活躍できるように身体障害，精神障害，発達障害，高齢期領域の中から3領域で実習をする体制を整えています。そして，臨床実習に行く前には，OSCE（客観的臨床能力試験）を行います。OSCEでは，障害をもつ方達との適切な関わり方や，作業療法の評価・治療の技術など，臨床実習で必要になる実践能力を本番さながらの設定で確認します。そのため，座学や学内演習で学んだことを，臨床実習につなげるための大切な機会になっています。本学科のOSCEには，学校の教員はもちろん，実習施設の実際の指導者も加わります。学生・教員・実習指導者が一緒に学生一人ひとりの長所や課題を確かめることで，学び深い臨床実習になるようにしています。

実習に行く前により実践的な体験

迫 知輝 (小樽潮陵高校出身)

OSCEのおかげで，実習へ行く前により実践的な体験ができ，またその次の日に自分たちの試験中の様子のビデオをみんなで見て，意見交換や先生からの指導を受けるので自分の改善すべき点を理解した上で実習へ行けるのでとても助かります！！

第四学年

卒業研究 ～研究手法を学ぶ～



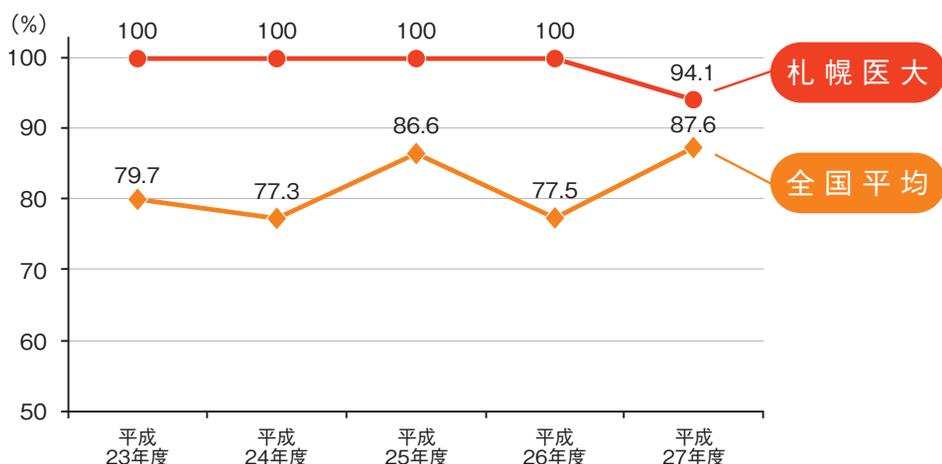
卒業研究は，3年生前・後期から研究法セミナー1・2という科目で科学的思考や，論文の読み方，研究データの取り扱い方法，統計学的な処理など様々な基本的な知識を教授された後，4年生の作業療法課題研究の達成課題として作成されます。卒業研究の指導は学生1～2名に教員1名が配置されており，個別指導を受けながら行います。そのため，最新の機器や理論に基づいた学際的な内容が多く行われており，卒業後，北海道作業療法学会などの専門学会で報告がなされる機会も増えています。また，大学院へ進学するための強い動機となる学生もあり，知的な好奇心を高めながら取り組める機会となっています。

研究の面白さを実感しました

早崎 涼太 (函館市立高校出身)

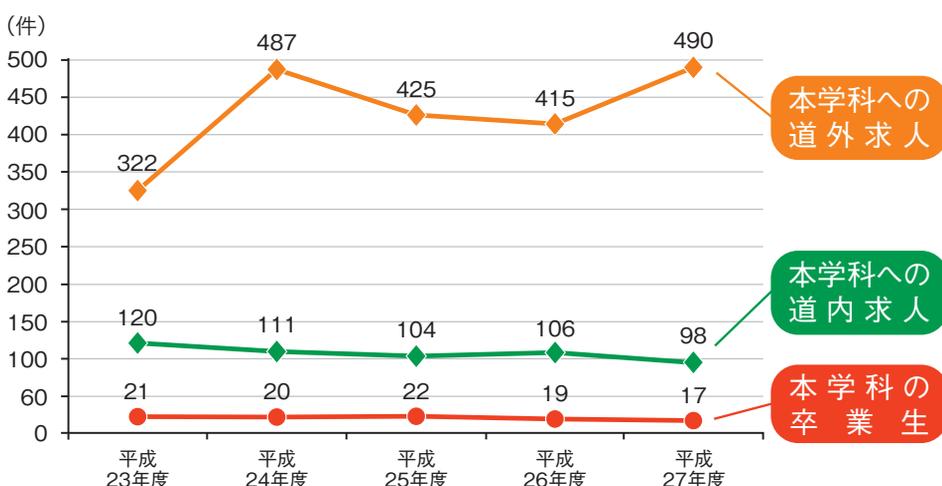
卒業論文の作成を通して，論理的に物事を捉えたり，自分の考えを相手にわかりやすく伝えるためのスキルを学ぶことができ，本当に良かったと思います。また，研究を深めるために大学院への進学を考えるようになりました。

国家試験・就職・進学の実績



国家試験の合格率の高さ

毎年卒業生全員が受験し、合格率は全国平均を大きく上回っています。



豊富な求人数

道内・道外を問わず、卒業生数を大幅に上回る500件以上の求人依頼を受けており、全員が希望通りに就職することができます。

高い就職・進学率

開学以来、全員が就職、または大学院に進学しています(就職・進学率100%)。また、常勤・非常勤職員として勤務しながら進学している卒業生もいます。

過去5年の主な就職先

- 北海道(道職員)
- 札幌医科大学 附属病院
- 北海道大学病院
- 勤医協札幌病院
- 北海道厚生連
- 札幌山の上病院
- 中村記念病院
- 札幌禎心会病院
- 旭山病院
- 札幌あゆみの園
- 札幌病院
- 済生会小樽病院
- 岩見沢市立病院
- 旭川医科大学病院
- 苫小牧市立病院
- 製鉄記念室蘭病院
- 恵愛病院
- 函館五稜郭病院
- 北斗病院
- 北見赤十字病院
- 美幌療育園
- 社会医療法人孝仁会 など

過去の主な進学先

- 札幌医科大学大学院 保健医療学研究科
- 札幌医科大学大学院 医学研究科
- 東北大学大学院 医学研究科
- 他

卒業生のその他の進路

- 大学教員
札幌医科大学保健医療学部
北海道大学医学部保健学科 他多数
- 研究所
フランス国立衛生医学研究所 他

札幌医科大学附属病院で研修プログラムが開始されました!



最先端の医療現場で自己研鑽ができる

昨今の高度化するリハビリテーション医療では、急性期から慢性期にわたる様々な病態に対応する高度な専門的理学療法・作業療法が期待されています。本研修プログラムでは、医師と強い連携が確保された専門化した理学療法や作業療法を推進していくための基礎的・専門的知識と技術、および医療人としての態度などの臨床能力の向上を目的としています。

【特徴】

札幌医科大学附属病院リハビリテーション部において、実際に勤務しながら研修を受けることから実践的な内容を学ぶことができます。とくに、大学附属病院という先端の医療を担う当院の関係診療科との連携を深めながら研修を実施することにより、専門的な知識を取得することが出来ます。

札幌医科大学理学療法士・作業療法士研修制度に関する詳しい情報は、ホームページをご覧ください。

URL : <http://web.sapmed.ac.jp/ptot-tracen/program.html#program2>



入学試験情報（札幌医科大学保健医療学部作業療法学科）

札幌医科大学保健医療学部アドミッションポリシー

札幌医科大学保健医療学部は、人々が健康に暮らせる社会の実現をめざして、様々な立場や役割を担う他者との連携・協働のもとに地域の保健・医療・福祉の充実と発展のため、主体的に貢献できる看護師・保健師、理学療法士、作業療法士を育成します。

そのため、次のような特性を有する学生を求めます。

- 将来は、看護師・保健師、理学療法士、作業療法士として人々の健康と生活を支える役割を担いたいと考えている人
- 地域社会への興味・関心を持ち、北海道の保健・医療・福祉に貢献する意志のある人
- 良心と社会規範にしたがい、良識ある行動ができる人
- 人々との交流を大切に、常に温かな配慮をもって他者と接することのできる人
- 広く社会に目を向け、知的探求心をもって柔軟な発想で物ごとをとらえることのできる人
- 人々や社会とのかかわりを通して自らの成長を願い、粘り強く物ごとに取り組むことのできる人

推薦入試

- (1) 出願資格：北海道内に所在する高等学校又は中等教育学校を平成29年3月卒業見込みの者のうち、以下のすべての要件に該当し、卒業見込みの高等学校又は中等教育学校の学校長が推薦する者
- ① 高等学校又は中等教育学校における調査書の成績が、全体の評定平均値で4.0以上の者で、保健医療の分野において社会に貢献する意欲のある者
 - ② 大学入試センター試験において、本学が指定する教科・科目を受験する者
 - ③ 合格した際に入学を確約できる者
- (2) 選抜方法 ● 第1次選考：小論文及び面接により募集人員数を合格とする
● 第2次選考：大学入試センター試験の合計点が全国平均点以上である者を合格者とする

一般入試（前期日程）

- 大学入試センター試験 一般入試において大学入試センター試験を課します
- 第2次試験（個人及び集団面接）
- 健康診断（該当者のみ）

入試情報の問い合わせ先

北海道公立大学法人札幌医科大学 学務課入試係 TEL：(011)611-2111（内線 2183/2184）
入試に関する詳しい情報は、札幌医科大学アドミッションセンターホームページをご覧ください。
URL:<http://web.sapmed.ac.jp/jp/public/exam/index.html>



いま、札幌医科大学は生まれかわる。



新リハビリテーション実習棟
（平成26年9月完成）



現保健医療学部横に教育研究施設が新設予定
（平成29年竣工予定）

北海道公立大学法人 札幌医科大学保健医療学部作業療法学科

〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目
学科情報・オープンキャンパス等の情報は下記 URL からアクセスしてください
URL:<http://web.sapmed.ac.jp/ot/index.html>

